

セブンイレブン物語(後編)

誘拐された竿娘の帰りを待ち続けながらも、あれから数年が経過して、フライ歴も十年を迎えようとしていた。

その頃には私の釣りも色々と広がりを見せ、ロッドも長短交えて番手違いで増え続け、用途別に色々と拘りが出てきていた。

溪流に持ち出すロッドもニンフ対応の9フィート強や7フィート半の小溪流対応等々・・・

それぞれ目的に応じて楽しんでいたが、溪流スタンダードフライフライ御達のメインロッドだけは、あの時の誘拐事件で、已む無く続投を余儀なくされた8フィート#4のダイワのロッドが、後続のロッドに交じって老骨に鞭打つ状態で頑張ってくれていた。

その頃、たまたま現地工事で客人と一緒に九州熊本市内(八代だったかもしれない)に数日駐在する出張があった。

日々事務所で終わりにき状態の仕事をしていた私にとって、毎日決まって定時で終わる現地工事は、ある意味気分転換にもなった。

当然、定時に上がって就寝までの時間を宿で悶々と過ごす訳もなく、飲み屋を梯子したりするのが日課となっていた。

ある日、いつもの様に定時で仕事を終えて宿に戻ると、客人が・・・

客「今日は飯の前にパチンコ行こか？」

私「いいですよ。」

概ねこの様な状況はネギ鴨の如く、在り金巻き上げられてステテンテンになるのがいつものことであるが、この日は二人とも短時間で数発の当りを引あてる幸運に恵まれて、飲み屋街に提灯が始める頃にはその日の飲食代を遙かに上回る泡銭が手元に転がり込んでいた。

客「ラッキーやったな！」

私「ホンマホンマ・・・(笑)」

そんな会話が物語る様に、上機嫌でパチンコ屋を出て飲み屋街に向かっている時だった。

ふと見ると、初老の小男が店のシャッターを閉めている。

察するに、ご自分のお店だろうが、毎日当たり前の様にやらねばならないシャッターの開閉が気の毒になるくらい背丈が足りていない。

やがてその脇を通過するところまで来たが、店主は相変わらず四苦八苦しておられる。

見かねた私はシャッターに手を差し伸べて一気に引き降ろそうとしたところで手が止った。

閉めようとした店のショーウィンドウには出所も疑わしい偽ギブソンのレスポールと真新しいリンクスのゴルフクラブ・・・しかし、何よりも私の目を惹いたのは、これまた出所が非常に疑わしい一本のフライロッドだった。

私「あっ・・・フライロッドやん！・・・何屋さん？」

小さな店ながら、鞆に時計、楽器に陶器、そしてこれまた何故だか一本のフライロッド・・・そこは溪流などを扱つた道具屋さんと見受けられた。

私「これ売ったはんの？」

思わず突いて出た言葉に店主は「どれ？」と言う素振りを見せて・・・

店「よかったらどうぞー！」

・・・と、口のカギを開けて店に入りショーウィンドウ越しに「これ？」と言う確認の素振りでロッドを指差している。

私「うん・・・それ！」

・・・と言うと、二丁目にショーウィンドウから取り出して見せてくれた。

客「おっ！釣竿かぁー買おうたれ！買おうたれ！」(笑)

・・・と同行の客人は野次馬になっている。

軽い気持ちで訪ねたにも係らず、わざわざ手元に差だしてくれた手前、一応それなりに見ない訳には行かない雰囲気になってしまった。

なんとその竿のバットには・・・フニニ・・・しかもキキと書かれてある。

私「おお～セブンイレブンでっか？」

・・・と呟く様に発した言葉は店主にとって意味不明に思えたらしく、笑みを浮かべて首を傾げている。

しかし、その出所もわからぬロッドを見たことも聞いたこともないメーカーだった。おそらくセブンイレブンでなかったら、何も感じずそのまま戻して立ち去っただろう。

私（アイツもこんな憂き目に遭おうとんかなあ？）

・・・と、誘拐されたセブンイレブンが彷彿とされた瞬間・・・

私「これどこの？海外メーカー？・・・国産？」と尋ねると・・・

店「舶来モンやないと聞きましたけど・・・」と店主が答える。

客「買おうたれ！買おうたれ！」（笑）

・・・と野次馬になり切った客人は上機嫌で茶化すが、アルミケースに入っているものの得体の知れないペチ物を軽々しく購入する気にはなれない。

私「なんぼでんの？」と問い質したが、意味が理解できない様で・・・

私「いくらですか？」と問い直した。

店主は暫し間をおいて、指を2本たてて貳萬円也と示してきた。

私「そらあ高いわ！・・・中古やろあ？」

客「さつき儲けた金で十分や！買おうとけ買おうとけ」（笑）

・・・と相変わらず野次馬が茶化す。

しかし、著名な海外品ならずともそれなりに名の知れた国産品ならいざ知らず、聞いたこともないメーカーのロッドが中古で二万円とはぼったくりも甚だしい。

普段なら（おおきに止めときまっサーすんまへん！）と断りを入れる

ところだが、泡銭を手にした上機嫌と野次馬の声援にも応えるが如く、関西人の良くない癖が出てしまった。

私「まあ～五千円やな！・・・」

それは無理と言わんばかりに店主は苦笑しながら首を傾げた。

客「そらアカンわ！・・・五千円はないやろ！せめて半額の一万円やろ！」

・・・と野次馬が茶化す。

私（いらんこと言わんでエエし！）

・・・と思いつつもどうせ売る気にならないだろうと言っ思いに反して、店主は暫く黙り込んだ後にこの「いらんこと」を承諾してしまった。

店「二万円ならいいですよ！・・・その代りこの場限りで返品なし、包装もなしと言っことで・・・」（笑）

私（えっ！・・・売るんかい！）

私「もお～一声・・・間取って七千円なら買いやな！」

・・・と何とか逃れようとする私に・・・

客「飯ぐらい奢ったるやん！・・・ケチ臭いこと言わんと買おうとけ！」（笑）

・・・と「いらんこと」を発した野次馬が被せた。

後先を考えない野次馬も一応は客人でもあり、これも何かの因果とばかりに泡銭から二万円札を店主に渡すとその手でロッドケースが渡された。

ソックスに竿を仕舞ってケースに仕舞い込む頃には、店主は私が途中まで引き降ろしたシャッターに飛びついて引き降ろし、鍵を掛けて我々が立ち去るのを待っている。

ケースの蓋を閉めて軽く会釈し、2ピースのロッドが入ったアルミケースを抱えて客人と飲み屋街に歩きだした。

客「ところでそれ何釣る竿なんや？」

私「ニジマスとかヤマメとか。(知らんのに買おうとけ言うかあ?)」

客「ヤマメって今日行ったトコの川(球磨川源流)で釣れるんちゃうん？」

私「ああ、居るでしょうね。」

客「明日昼休み釣りしようか?..糸と鉤..どっか売ってへんか？」

私「普通の糸とちやいまっせ!..それにリールも居るし!..」

客「本格的にやらんでもエエやん!..餌なんや？」

私「いやーだあかあらあ!..フライ!..」

客「あっ!..ココしよう!..この店..美味しいぞあや!..」

私(話として最後まで聞けよ!..)

店に入る釣りの話はそっちのけになり、晚餐を思案しながらメニューを見定める客人..

客「とりあえずビール!..」

..と頼んだ後はもはや話題は釣りとは無縁の方向に進んでいた。

店「はいビールですよ。」..と差し出した後..

店「馬刺しと豚足でええです。」..と二人の前にドンと置く..

客「いや..まだ頼んでへんで!..と切り出す言葉に被せる様に..

店「まあ、何も言わずに食べてみなんせえ!」

..と女店員は笑い飛ばした。

私「そうそう..奢り奢り!..ケチ臭いこと言わんと食べましょや!」

..こんな日々を過ごした出張も終わり、工事器具や残材と一緒に件のロッドは運送業者に任せて、空路帰阪の途に就いた。

何時もなら早く使いたくてウズウズする新入ロッドとなるはずだが、社交の成り行きと泡銭で手にしたペチ物ロッドは、数日後に届いた荷物を開梱したと同時に車のトランクに押し込められて、暫し忘れた存在となっていた。

「そうや!ウシ..こないだ九州でロッド買おうたんや!セブンイレブンの#4やったな..明日使こおて見たろ!」

そして翌朝、このペチ物ロッドを手に溪に降りてキャストを開始した。

そう言えば購入時は客人も居て、「ニジマスと損傷の有無を確認した程度で肝心の調子確かめる様な素振り」は殆どしていなかった。

「ああ、ちよつと柔らかいなあ。」

老骨に鞭打つ状態ながら使用してきたダイワのロッドも若干硬さが気になりだして、もう少し柔らかめのロッドがほしいと思っただけだが、このペチ物は私のイメージを少し越えた様な柔らかさであった。

しかし、これもフォールキャストの段階までで、大きくバックキャスト

に入ってシュートでポーズを決めようとした時..

このペチ物は私の腕の振りを無視する如く、まったりとラインを抱え込んで腰が砕けた様にひん曲った。

「なんじゃコレ!..ついてこんかい!..ドン臭い竿やなあ。」

イメージした軌跡と程遠い波打つラインが送り出されて釣りにならない。

もう一度トライするが、イライラした気分は「リキミ」を伴ってやしばやんだけ上手く行かない。

「アッカン!..やっぱコレ!..ペチもんやんけ!..何が#4じゃ!..

どおせどっかのプロショップのおたくが趣味で捲えた竿やろ!」

即刻、車に戻り別の竿を持ち出してその日の釣りを楽しんだ。

またもや..要らぬ竿を衝動買いしたことは明白である。

所詮、旅の衝動買い..安物買いの銭失い..この竿を使うなら、当時お気に入りになりつつあった「6.6」が格段に優れている事は疑う余地がない。

当然、即刻納戸に押し込められ、使われる宛のないロッドとなってしまう。しかし、意外にラッピング等が丁寧でそれなりに作られた竿であることは伺えた為、「騙された」とは思わなかった。

それから数年が経過し、誘拐された竿娘もペチ物のセブンイレブンも記憶の彼方に押し込められ、老朽化したダイワのロッドに代わってコータックの「ユニ」がその座を支えていた。

しかし、私の釣りもウェットフライにまで手が伸びて、ドライフライと言えば8フィート強の軟調#2か7フィート半の#3が主流となり、セブンイレブンの出番は少なくなっていた。

そして四十歳を過ぎた頃、「フライを始めたい」と言う知人にコータックの「ユニ」を差し出して・・・

「よかったら、コシ使いくな！」

・・・と渡した時から、セブンイレブンと言言葉の響きにも何も感じなくなっていた。

ある日のタイングの真っ最中・・・

横の本棚の棚板が外れて本が雪崩れて頭に当たった。

「いっくらあったあ〜！」

その頃は既に釣り雑誌も購読しなくなっていたが、三十代に購読していた釣り雑誌が整理もされずに積み上げられたままだった。

片付けるのも鬱陶しいので、已む無く投棄するのことにし、紐を持ち出して括り始める。

概ねこんな時はサッサとやればよいものを、つついっぺいページを開いてみながら束ねて括ると言う作業になりがちで、この時も例に漏れず記事に目を通しながらのんびりと片付けていた。

そこに・・・とある記事に目が留まった。

【柔らかい・・・日本の溪流専用】・・・とか何とか書かれたタイトルで、とあるメーカーのロッドが紹介されていた。

「へえ〜・・・こんなメーカーあるんや・・・今もあるんやろか？・・・今度いっぺん聞いてみよか？」

その時はその程度の思いで、その雑誌もまとめて束ね上げ、家内が廃品回収に出せる様に表の自転車置き場に仮置きした。



そして半日程経過した頃、不意にそのメーカーの名が思い起こされ、食後の昼休みに検索サイトに書き込んでクリックして見た。

・・・多くはないが少しは出てくる・・・そしてこれまでカタカナでしか頭になかったメーカー名がアルファベットのロゴでロッドに記されており、それを目にした瞬間にビビッと来た。

「あれっ?・・・これ、どこかで見たことあんで?・・・どこやったっけ?」
しかし、気になりながらも思い出せない・・・

自宅に帰って着替えながら・・・

私「そうや!・・・この前の雑誌・・・あれまだあるか?」

家「ない!・・・とっくに捨てたわ!廃品回収に・・・」

・・・いつもの家内のそっけない答えが返ってきた。

そして夕食を食べ始めて箸をつけた途端・・・急に記憶が蘇り、箸を置いたまま納戸にすっ飛んで行った。

家「はよお食べてえらや!片付けあんねん!」

そんな家内の言葉にも耳を傾けず、久方ぶりにペチ物ロッドのケースを開けてロッドを取り出し、バットに記されたロゴを確認した。

「やっぱリー・コイツヤ!」

不思議なもので今の今まで、ペチ物と思いこんでいたロッドが、雑誌に掲載されて検索サイトで垣間見えるロッドと分かるにつくつくして来る自分が居る。

そもそもロッドの真価を理解することなど、ド素人の私にできる訳もなく、釣り人としてもその他大勢に含まれる者であるが故、所詮はこの程度であることも、至極当然と言えるであろう。

それからその九州で発掘されたロッドは、ペチ物の汚名を返上し、玄関に並べられた現役ロッドの仲間入りを果たした。

そしてこれまた不思議なもので、加齢とともに振りが変わった事が関係

するのか、それとも真価を風評でしか理解できない愚か者であったが為か・・・

まったりとラインを乗せて、フニ一番でしなやかに曲がり・・・早くなく遅くなく、滑らかに伸びていくループを生み出すこの泡銭ロッドの虜になってしまった。

ノースランド・フニニ・メイフライ#4

おそらくこのロッドが、漸くたどり着いた私の【セブンイレブン】なんだらう。

完

あとがき

私も、もうすぐ五十歳を迎える今・・・

加齢とともに若かりし頃が懐かしく思えたりもする。

一時期は誘拐されたセブンイレブンの帰りを・・・

半ば意固地になって待ち続けていたが・・・

今となってはどなたかの愛竿として過ごせたのであれば、それでよい・・・

その竿娘のオービスに代わって・・・

旅の道中で手にした泡銭で引きとったセブンイレブンが・・・

私の釣りの一端を支えるまでになってくれている。

これもあの竿娘がもたらしてくれた・・・

ささやかなプレゼントの様な気がしている。

誘拐されたセブンイレブン・・・

竿娘よ・・・ありがとう。

